

地域福祉情報論

[講義] 1年・2年 後期 選択 30時間 2単位

《担当者名》長谷川 聡 (非) haseg@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

国内外の行政統計や調査研究データが電子化され、加工利用可能な一次資料としてネット上で公開されている。本講ではこれにアクセスして「データに基づく / 根拠のある地域福祉課題を発見して説明できる」ことのほか、AIツールの活用も含めた情報リテラシーのスキルアップを目的とする。併せて情報化社会における地域福祉課題について検討する。

【学修目標】

- 1) データに基づく地域アセスメントとニーズ発見の手法を実行できる
- 2) 地域福祉における情報化の価値と意味を説明できる
- 3) 地域福祉に関連する情報を取り扱い分析評価できる
- 4) データサイエンスの概要と手法およびAI活用について説明し実行できる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	シラバス詳細説明と本講のすすめ方 受講学生のニーズ確認 データサイエンス概説 AI活用の留意点	長谷川
2) 3	データ活用の知識と技術	事例考察1「さっぽろ統計情報」 概説・統計読解・資料加工技術演習 AIを活用したデータ加工の実際	長谷川
4) 5	データ活用の知識と技術	事例考察2「Our World in Data」 概説・統計読解・解説文クリティーク AIを活用した概説・解説クリティークの実際	長谷川
6) 7	地域福祉情報活用演習(全体)	オープンデータによる情報処理演習 (地域特性、地域課題) AIを活用した情報収集の実際	長谷川
8) 9	地域福祉情報活用演習(個別)	個別演習の対象と課題の討議による選定 オープンデータ入手と前処理 AIを活用した分析作業の効率化の実際	長谷川
10) 11	地域福祉情報活用演習(個別)	個別演習課題の実施経過報告と討議	長谷川
12) 13	地域福祉情報活用演習(個別)	個別演習課題のプレゼンテーションと討議	長谷川
14) 15	地域福祉情報の実際	ネット情報と文献のクリティカルブラウジング・クリティカルリーディング	長谷川

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

授業への参加状況(討議発言、プレゼンテーション、リアクションシート記入)80%、レポート課題20%により総合的に評価する。リアクションシートとレポートはオンライン提出とし、コメントを付けて返却する。

【教科書】

使用しない。演習教材としてネット公開されている「さっぽろ統計情報」「Our World in Data」をほぼ毎回利活用するので、情

報ツールを常時携帯すること。

【参考書】

はじめの第一歩 基礎からはじめるデータサイエンス・保本正芳著・noa出版(2022)
域福祉情報論序説「情報化福祉」の展開と方策・森本佳樹著・川島書店(1996)
地域の 実践 を変える社会福祉調査入門・笠原千絵編著・春秋社(2013)
文系のための統計学入門-データサイエンスの基礎・河口洋行著・日本評論社(2021)
Rによるテキストマイニング入門・石田基広著・森北出版(2014)
そのほか講義時に資料を適宜配布する

【学修の準備】

表計算アプリの基本操作、すなわち表作成、式計算、記述統計関数利用、グラフ作成をできることが望ましい。統計関連では基本統計量(平均、ばらつき、相関)と回帰分析の知識があれば良く、なければ予習しておく。データベース関連では医中誌Web、JSTの各種ファイルおよびJ-Stageによる邦文文献検索ができるが良い。準備時点で独学、自学自習が困難な場合は事前の個別相談に応じるのでメール連絡する。希望があれば講義開始後にスキルレベルに合わせて個別指導する。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

本科目の内容は、臨床福祉学における高度な専門性と研究能力を修得するという臨床福祉学専攻博士前期(修士)課程のディプロマ・ポリシーに適合している。